

研究経過報告（1989年10月～1990年10月）

若林 满

過去1年間に刊行されたものは以下の通りである。なお、*印のものは昨年度の報告において、「印刷中」として紹介されたものである。

I. 分担執筆として、以下の3点が刊行された。

- ① キャリア・デベロップメント 山城章編著 経営教育ハンドブック、同文館、1990年、236-241.
- ② 職場の学習環境改善の進め方 鎌田勝編著 管理者・監督者のための職の仕方と職場における教育の進め方、アイ・エヌ・ジー出版、1990年、226-243.
- ③ 米国日系製造企業における現地採用従業員の人材育成戦略—米国中西部の自動車・機械関連日系企業を中心に—、環太平洋圏における文化的・社会的構造に関する研究 名古屋大学環太平洋問題研究会刊、1990年、71-100.

II. 大学生の進路選択に関する研究論文として、以下のものが執筆された。

- *① 女子大学生の職業興味と職業選択 後藤宗理・宗方比佐子と共に、名古屋大学教育学部紀要—教育心理学科、1989年、第36巻、1-32.
- ② 女子大学生の職業意識とライフスタイルの選好、宗方比佐子・L. Halinski・伊藤雅子と共に、文部省特定研究「教育の場における相互作用の実証的総合的研究」報告書、名古屋大学教育学部刊、1990年、189-206.

III. 職業人を対象としたキャリア発達に関する研究論文として、以下のものを執筆した。

- ① 地方自治体職員の管理能力、榎原国城と共に、経営行動科学、1990年、5、17-26.
- ② 創造的問題解決訓練が日本人管理者の拡散的思考に対する態度に及ぼす効果 M. Basadur・高井次郎と共に、経営行動科学、4、1989年、75-82.
- ③ 異文化間人材育成戦略—米国中西部進出の日系製造業の場合、経営行動科学、1989年、4、123-134.
- ④ 在職中の生活と退職後の生きがい—退職者の生活意識調査から— 松浦いね・三浦三郎・斎藤清三と共に、季刊TASC、1990年、10、32-45.

⑤ 定年退職者の在職中の経験と退職後の生きがい—特定企業を対象とした事例研究—林文俊・松浦いね・松浦均との共著、経営行動科学、1990年、5、27-38.

⑥ 女性の能力活用をめぐる職場環境の変化—男女雇用機会均等法の影響について— 宗方比佐子と共に、経営行動科学、1990年、5、47-57.

⑦ 女性管理職のキャリア意識とキャリア環境、TASC Monthly、1990年、7、4-17.

IV 看護職キャリア発達に関する研究論文は、以下の2点である。

- ① 勤労看護学生の就業実態と就業意識、水野智・佐野幸子と共に、病院管理、1990年、27、241-248.
- *② 看護学生の職業環境の認知—看護婦・医師・患者・病院に対するイメージを通じて—佐野幸子・水野智と共に、名古屋大学教育学部紀要—教育心理学科、1989年、第36巻、121-138.

V. 組織イメージ・先端科学技術イメージに関する研究論文として、以下のものが執筆された。

- ① 先端科学技術に対するイメージの構造—階層的主成分分析に基づくイメージ構造 松浦均・廣岡秀一・村上隆と共に、経営行動科学、1989年、4、101-110.
- ② CI活動が従業員の組織に対する態度とイメージに与える影響について—組織コミュニケーションとしてのCI活動の視点から 斎藤和志・中村雅彦と共に、経営行動科学、1989年、4、111-122.
- ③ CI活動と組織パーソナリティの形成、TASC Monthly、1989年、11、4-8.
- ④ CI活動と従業員の仕事意識に関する研究、斎藤和志と共に、日本労務学会年報（第19回大会）、1990年、99-106.
- ⑤ 組織コミュニケーションに関する実証的研究—CI活動を通じた組織イメージの形成、経営哲学論集（第6集）、1990年、80-87.
- *⑥ 態度形成、説得的メッセージ、情報源の専門性が態度変容に及ぼす効果—熟考尤度モデルと態度形成

教育心理学教室教官の研究状況報告

理論に基づく検討 中村雅彦・斎藤和志と共に著、心理学研究、1990年、61、15-22。

VI 英文論文として、以下のものが執筆された。

- ① Managerial Career Progress in a Japanese Organization : A 13-year Longitudinal Investigation, *Applied Psychology : An International Review*, 1989, 34, 337-352. (with Minami, T.)
- *② International Generalizability of American Hypotheses about Japanese Management Process : A Strong Inference Investigation. *The Leadership Quarterly*, 1990, 1, 1-24, (with Graen, G.)
- *③ Union Participation in Japan : Do Western Theories Apply? *Industrial and Labor Relations Review*, 1990, 43, 374-389, (with Kuruvilla, S., Gallagher, D., and Fiorito, J.)
- *④ Identifying Creative Problem Solving Style. *Journal of Creative Behavior*, 1990, 24, 111-131. (with Basadur, M., and Graen, G.)
- ⑤ Cross-cultural Human Resource Development for Transfers of Production and Management Practices : Focusing on Japanese Manufacturing Firms in the Central States of America. Paper Presented at the 22nd

International Congress of Applied Psychology, Kyoto, 1990.

VII 評論として、次の3点が刊行された。

- ① リーダーシップ研究の課題、さいころじすと、1990年、No.23, 5.
- ② ケース海外出張、LDノート、1990年、6月号(No.598), 6-7.
- ③ 出世競争モデルからキャリア・デザインへ、DIAMOND ハーバード・ビジネス、1990年、11月号、1.

VIII 調査報告書として、以下の5点を執筆した。

- ① 看護職キャリア発達研究(2) — 2年次における看護学生の意識と行動の変化—、水野智・佐野幸子と共同執筆、看護行動研究会刊、1990年。
- ② 在職中の生活と退職後の生きがい—退職者の生活意識調査から、松浦いね・三浦三郎・佐藤清三と共同執筆、たばこ総合研究センター刊、1990年。
- ③ 女子労働者就業環境調査、宗方比佐子・佐野幸子と共同執筆、愛知県労働部刊、1990年。
- ④ 先端技術に対する態度の変容(3)、中村雅彦・斎藤和志と共同執筆、経営行動科学的研究会刊、1990年。
- ⑤ 企業・技術イメージの変容に関する調査研究報告書、中村雅彦・斎藤和志と共同執筆、経営行動科学的研究会刊、1990年。

研究経過報告（平成2年4月～11月）

平石賢二

4月に助手として着任してから、早くも半年が過ぎてしまっている。物理的な環境の変化も大きいがそれ以上に心理・社会的な環境の変化、社会的役割の変化は著しく、適応するためにかなりの時間と労力を要している。しかし、この環境の変化とそれに対する適応の問題は、私自身の研究テーマである青年期における発達課題、すなわち青年期後期から成人期前期において経験される様々な心理的課題を含んでいるため、自分自身の意識の流れを第三者的、観察自我的に眺めては楽しんでいる部分もある。特に、自己概念の変化はめまぐるしく、これは是

非研究に役立てねばならないと考えている。

以下に、この半年間の研究成果と研究経過について述べていくこととする。

I 個人研究—青年期における自己意識に関する研究—個人研究としては、修士研究以来、青年の自己意識の問題を取り組んでいる。論文としては、後期課程に投稿した次の論文がようやく教育心理学研究に掲載された。

「平石賢二 1990 青年期における自己意識の構造—自己確立感と自己拡散感からみた心理学的健康—教